



和土小だより



児童数	男子	98名
	女子	75名
	総計	173名

発行責任者 校長 辻 美由紀



星に願いを 和土っ子達の夢は…

校長 辻 美由紀

一学期も残りわずかとなりました。梅雨に入ったものの、思ったほどの雨はなく、二年ぶりのプールでの水泳学習も進んでいます。ただし、子ども達はマスクを着用せずに実施しているため、返事の代わりにサツと手を挙げる、密集・密接を避けて、少人数に分かれ、順番を待ってローテーションで水に入る。いつもなら「泳力アップを目指して…」と教員も手取り足取りの指導ですが、今年はこれも出来ず、プール用のマスクにフェイスシールドを着用し、距離をとっての指導が中心となっています。1・2年生は、初めての和土小での水泳学習となっています。屋上にあるプールは、どんな風に感じられているのでしょうか。

さて、和土ギャラリーには、PTAの皆様により七夕の飾りつけが施され、3カ所に取り付けられた笹には、子ども達、そして私達教職員も願いごとの短冊を下げました。和土っ子達は、どんな願いごとを書いているのでしょうか。

- ・田舎のじいじとばあばに会えますように
- ・家族と旅行に行けますように
- ・家族が幸せでいられますように
- ・コロナがなくなって世界中の人達が健康でいられますように
- ・算数ができるようになりたい
- ・大工さんになりたい

和土っ子達の短冊より

なるほど、コロナ禍でいろいろとできないことが続いています。これまでできたことができるようになる（コロナ前のように戻る）ことを願う言葉。また、家族や世界の皆さんのことも…ニュースなどで、日本だけではなく大変な状況を目にしているのでしょうか。身近な人だけでなく遠く離れた人にも思いを寄せている子ども達がいることは素敵なことです。一つひとつの短冊に思いが込められています。その中で、「できるようになりたい!」「大きくなったら…」と夢を表す子ども達。具体的であればあるほど、願いとは、少し違う自分自身の夢、目標、決意のような印象を受けます。先日、

お子さんが小学校の卒業を迎えた保護者の方の手記を見る機会がありました。卒業生の会の準備の手伝いに入った時のこと。将来の夢を一人ひとりがボードに書いている時に「〇〇ちゃんは、アイドルになりたいんだよね」と友達に話しかけられたものの、「これ、お母さんも見るんだよね。アイドルなんて書いたら怒られる。」と、しっかりした字で「歯科衛生士」と書いた女の子の話でした。その方は、家庭での親子の会話を想い、親の言葉の重みを感じた、というような内容でした。皆様のお宅ではいかがでしょうか。子ども達の夢は、たくさんあってもいいし、変わってもいい。まずは、いろいろな「もの・こと・人」と出会って、世界が広いことを感じて欲しい、知って欲しいと考えます。そのことが、夢につながると考えるからです。今年の夏休みは、少し長い期間となります。様々な制限もあり、自由に過ごすことは難しい面もありますが、子ども達に、たくさんのお会いの機会をつくっていただくと幸いです。じっくりと向き合って話をする、読書の世界を楽しむ、いつもはできないような体験をする…など。どれを選ぶのか、決めるのは、子ども自身です。和土っ子達の世界が少し広がり、夢につながる何かと出会ってくれたら…と期待しています。休み明け、目を輝かせて登校してくる和土っ子達を待っています。

間もなくの夏休み。暑さが増してくるこの季節、感染症対策も欠かせませんが、保護者、地域の皆様も熱中症にはご留意いただき、健やかにお過ごしください。

未来に向かって力強く生きる ひとみ輝く 和土っ子の育成

○やさしい子 ○かしこい子 ○たくましい子

やさしさいっぱい 力いっぱい やる気いっぱい

